

日本山岳 2018年度 第34回 東北北海道地区集会
出羽三山をめぐる山旅 山行記録

日時：2018年9月15-16日（土-日）

参加者：申し込み時、北海道支部2名、青森支部2名、岩手支部2名、秋田支部8名、宮城支部5名、福島支部10名、山形支部17名、合計46名（詳細は山行資料参照）。キャンセル：福島支部1名、山形支部1名、
コース区分：申し込み時、散策コース6名、一般山行コース40名。変更：散策コースへの変更1名。

9月15日

- ・午前中に山形・寒河江在住の山形支部会員が出発、志津姥沢駐車場に武田車をデポした後羽黒町に向かった。
- ・13時から支部役員による準備会を行い、役割分担の最終確認を行った。
- ・15時から受付開始、15:40から支部代表者会議を開催し、次期（2019年度第35回）開催支部を宮城支部とすることを決定、2020年度第36回開催支部候補を青森支部とすることを決定承した。また、エスケープ者の介助には当該支部の方が支援にあたることを確認した。
- ・16:00から、木村会員による講師紹介の後、大進坊坊主の早坂眞一氏による記念講演「出羽三山の自然と文化」を聴講。
- ・17:30からの自由時間には多くの参加者が羽黒山随神門、五重の塔を参拝した。
- ・18:30から夕食交流会、粕谷会員による山形支部の歴史紹介、前回開催岩手支部長の阿部氏から祝辞と乾杯の発声があった。
- ・19:30頃北海道支部2名が到着し、挨拶があった。これに引き続いて支部ごとに自己紹介や近況報告が行われ、和やかに懇親会が進んだ。
- ・20:30で一次会解散の後、各部屋で二次会が行われた。



9月16日朝、大進坊でのご祈祷（武田）

9月16日（コースタイムは野堀GPSログによる）

- ・6:30から坊主によるご祈祷が行われた後、7:00から精進料理による朝食。
- ・8:00に大進坊玄関で集合写真の撮影を行った後、いでは観光



大進坊玄関での集合写真（河口）

バスで全員が八合目駐車場に向かった。並行して山形支部の牧会員が八合目に向かい自車をデポした。

- ・ 8:50 に八合目駐車場到着、安井理事の指導で全員準備運動をした後、散策班と山行コース5班に分かれて行動開始。
- ・ 9:00 散策コースは弥陀ヶ原湿原を散策した後、10:00 に宝谷蕎麦に向かう。
- ・ 11:00 山行コースは粕谷会員の先導で九合目仏生池小屋に到着。班長支部長が協議の結果、ここから福島支部会員1名＋介助1名＋牧会員が八合目駐車場に向けて下山。その後3名は牧車で大進坊到着、福島支部のマイクロバスに乗り換えて湯殿山に向かうこととした。
- ・ 山行コースのメンバーは行者返しを難なく通過して 12:40 月山山頂に到着。昼食は大進坊特注の小さめ三色おにぎり三個のご馳走であった。参加者の体調を確認し、牛首からリフト下山するメンバーを募った。野堀隊長は本部の長岡会員と携帯電話で連絡し、双方の状況を把握した。
- ・ 13:00 山頂出発、14:00 牛首到着。更にリフト下山するメンバーを募った。福島支部1名＋介助1名、秋田支部1名＋介助1名＋武田会員の計5名が月山リフトに向けて下山、他は金姥に向けて出発。14:20 金姥通過。
- ・ 15:00 装束場（施薬小屋）到着 15分休憩。野堀会員がドローン実演。
- ・ 15:15 出発し月光坂へ向かう。鉄梯子、フィックスロープのガ



弥陀ヶ原への登山路（武田）



仏生池小屋（武田）



月山山頂三角点（武田）



牛首からリフト乗り場への下山路（武田）

レ場、河原などの難所を下り
16:10に湯殿山神社ご神体付近
に到着。福島支部2名+牧会員
と合流。16:20に武田会員と携
帯電話で連絡し、湯殿山仙人沢
駐車場集合を確認した。

- ・ 散策コースチームは秋の宝谷
の景色を楽しみながら「宝谷天
ざる」をいただき13:30まで休
憩をとり、その後湯殿山総本寺
大日坊に行き、即身仏「真如海
上人」を参拝した。山行コース
チームを迎えるため仙人沢へ向かい御神体を参拝、16:30湯殿山神社で待機
した。
- ・ 17:00 全員が旧湯殿山ホテル（有料道路下入口）で、散策コースのいでは観
光バス、福島支部のマイクロバス、武田車が合流し、全員の無事を確認した。
ここで福島支部が離脱するので一次解散とした。いでは観光バスと武田車は
大進坊に向けて出発。
- ・ 18:10 大進坊前到着、大進坊に帰着の挨拶をし、メンバー確認の後、解散し
た。



装束場でのドローン撮影（野堀）

天候等

荒天時の対応について山行コースでは全く支障がなく快適な山行が楽しめた。
仏生池小屋付近で一時ガスがかかったが視界は良好で景色も楽しむことが
できた。山頂からの下山路でも行く先の登山道が確認できた他、朝日連峰の
遠景も一時的に楽しめた。参加者の中から、月山東斜面で積雪時のスキーを
楽しみたいとの声も出ていた。散策コースも同様に全く支障がなかった。湯
殿山から大進坊に向かう帰路で小雨が降りしたが、雨具の必要はなかった。
前日までの予報が外れて幸運と思うほか言いようがない。

考察

山行コースでは、当初八合目の神社と小屋を通過しないコースを設定していた
ため仏生池小屋までのコースタイムは短く見積もり過ぎた。休憩時間と昼食
で時間調整をすることとなった。全行程粕谷会員による先導でほぼ完ぺきな
ペースメイキングとなった。最終的に湯殿山神社への到着が基準となるコー
スタイムから15分程の遅れとなったが、下山路のメンバーの数が30人で
あったこと、月光坂が陰しく、隊列が伸びることを考慮すればやむを得ない
ことと思われた。

登山路の仏生池小屋で1名、下山路の牛首で4名のエスケープルート選択者
があったが、対応策のマニュアルに従って適切に対応することができた。全
員が無事に帰路に就くことができたのは、まさに完璧なペースメイキングと
この対応策の成果だと感じた。事前の準備会を計4回開催した成果も付け
加えておこう。

長岡会員が担当する本部の散策コースと一般山行コースの連絡は月山山頂と湯殿山神社の二ヶ所で行った。途中の行者返しや月光坂では携帯電話の通信状況が悪く、小型無線機の通信も不確実であった。安全確保のための通信システムの確保は今後の問題点と言えるかもしれない。

今回の第34回東北北海道地区集会では山形支部の総力を挙げた対応となった支部長として支部会員の皆様のご尽力に心から感謝の意を表する次第である。なお、これより大きな規模の集会の場合、対応が極めて困難になることが予想されることを付け加えておきたい。

今後の対応

参加者へのお礼と集合写真の送付、収支会計は9月末までに行いたい。

2018年9月18日
文責：野堀嘉裕・佐藤映子